

## 第2学年 けやき学習（総合的な学習の時間）学習指導案

指導者 吉田 裕一

1 日時 平成25年7月5日(金) 第2校時

2 学級 2年2組 男子16名 女子16人 合計32名 南校舎2階2年2組教室

3 主題 「働く大人に学ぶ」

### 4 主題について

本校の「総合的な学習の時間」である「けやき学習」は、自己を見つめ、成長を確かめながら、現在や将来の望ましい自己の生き方・在り方について主体的に考える時間として位置づけている。「自分を知る」(根)、「自分を育てる」(幹)、「自分を考える」(梢)の3つの活動を柱として、この取り組みを学年を追って系統的または螺旋的に進めている。

昨年度から生徒は、先輩や先生、同学年の生徒とのかかわりから様々なことを学んできた。今年度はけやき学習の2年目となり、仲間と協力して活動することの楽しさを通して「働く意義」の学習に入った段階である。第2学年の前期に行う「けやき学習」の中心は、8月に行われる「職場体験学習」に向けての取り組みである。何のために仕事をするのか、ということを中心に考え、実際の職場での仕事を体験することでその意義についての理解を深めることを目的としている。この学習に取り組むにあたり、生徒は第1学年で仕事のどのような点にやりがいを感じているのか、なぜその職業を選んだのか等についてのインタビューを身近な人を対象に行い、考え方や生き方について触れてきた。第2学年ではより「社会」を意識し、実際の職場を体験することで「働く意義」について理解を深める場となる。事前学習で仲間と協同する場面を設けながら、将来についての生き方を考える力を育てていきたい。

今回の体験学習は、働くとはどういうことかを理解し、これからの自分の生き方を考えるきっかけととらえている。中学卒業後の進路に関する学習もこれから行っていく段階である。よって、事前学習では実際に体験できる職場の仕事内容や特徴を調べたり、インタビューの内容を吟味したりしていく必要がある。また、それに加えてコミュニケーションを円滑にするためのマナーやスキルも身につけていかなければならない。事前学習の取り組みを、「働く意義」から「自己テーマ設定」へというように、段階を踏んで学習を進めていき、将来の職業についても考えることにつなげる。そのために生徒の主体的な態度・協力する姿勢を大切にしながら取り組ませたい。この活動は社会人とかかわる体験活動でもあり、他者と協同しながら個々のテーマについての理解を深めようとする学習活動でもある。そこで職場体験学習を行うにあたり見通しをもたせ、最終的なゴールである「職場体験学習レポート」を作成することを確認させる。このレポート自体を一つのパンフレット形式とし、自分の学習の過程を適宜振り返るための記録と位置づける。ゴールを見据えたワークシートに記載してあるその一単位での目標や身につけた力を生徒がいつでも確認できるようにし、目標を意識した活動へとつなげていく。そして、自分のテーマに基づきながら、「働く意義」について個人レポートに学んだことや考えたことをまとめさせることで、本単元の学習の初めと終わりで「働く意義」についての考え方がどう変容したか振り返らせたい。

## 5 単元の評価規準及び指導と評価の計画（22時間）

評価の 観点	学習方法		自分自身	他者や社会 とのかかわり
	課題設定	収集分析	将来展望	他者理解・協同
単元の 評価規準	①大テーマのもと、自己の興味関心を生かして価値ある課題を設定している。	①企業等での体験学習にむけて必要な情報を収集し、その情報を整理・分類・分析している。	①様々な職業観や人観に触れて、今の自分、また今後の自分の生き方・在り方について考えをもつ。	①職場体験先への相手意識をもち、得た情報を吟味し、自分の考えや学習成果を目的に応じて表現しようとしている。

単元名	主な学習活動	評価規準及び主な評価方法	
働く大人に学ぶ (22時間)	○単元オリエンテーションでねらいを知り、学習の必要性を感じ、見通しをもつ。 ・ 内容や日程などの大まかな見通しをもつ。		
	○「働く意義」について考える。 ・ 人はなぜ働くのか、働く「価値観」について学習する。 ・ 職場体験先の選択、決定をする。 ・ 職場体験学習における自己テーマについて考える。	課①	<u>制作物による評価</u> ・ 職場体験学習パンフレットへの記入
	○職場体験先の事前学習を行う。 ・ 職場体験先の情報を各種メディアを用いて調べる。 ・ 班内での役割分担、準備物の確認を行う。 ・ 事前質問の作成、及び内容の吟味をする。(本時) ・ 事前質問票を完成させる。	収①	<u>制作物による評価</u> ・ 職場体験学習パンフレットへの記入
		収①	<u>制作物による評価</u> ・ けやきノートへの記入 ・ 相関図
	○職場体験学習時に必要となるスキル学習に取り組む。 ・ 当日の振舞い(マナー)について学習する。 ・ 当日のインタビュー内容を確認する。 ・ 振り返りの観点について確認し、まとめ方をおさえる。 ・ 当日の計画立て、行動シミュレーションを行う。	他①	<u>制作物による評価</u> ・ けやきノートへの記入
		収①	<u>制作物による評価</u> ・ 職場体験学習パンフレットへの記入
	○職場体験学習を行い、自己テーマ達成に向けて活動する。	自①	<u>制作物による評価</u> ・ 職場体験学習パンフレットへの記入
	○「職場体験学習」の取り組みや、これまでの経験や体験を通して、学んだことや考えたことを「職場体験学習レポート(単元シートの完成版)」と題してまとめる。		<u>パフォーマンス評価</u> ・ 職場体験学習での様子
		他①	<u>制作物による評価</u> ・ 職場体験学習レポートへの記入

## 6 本時の目標

<p>学習方法に関すること</p>	<p>企業等での体験学習にむけて必要な情報を収集し、その情報を整理・分類・分析している。</p> <p>〈生徒の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの質問の偏りや領域の価値がわかり、気付かなかった視点からの質問を考えることができた。</li> <li>・ 領域は違う質問でも、それをつなげて新しい質問を考えることができた。</li> <li>・ ほかの班の質問を参考にして、自分の班の質問作りに生かすことができた。</li> <li>・ 話し合いで新たに質問を考えることができたが、さらに質問はないかを今後の活動でも考えていきたい。</li> </ul>
<p>自分自身に関すること</p>	
<p>他者や社会とのかかわりに関すること</p>	

## 7 本時の指導構想

### (1) 「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は、評価規準の「学習方法（収集分析）」の「質問を分類、分析し、協同的な活動を通してよりよい質問作りにつなげることができる」を主にねらったものである。

- ①【説明する】 …前時の、職場体験学習先の企業について調べた知識を基に考えて付箋に記入した質問を使い、本時は「よりよい質問作りにつなげていく」ことを説明し、本時の課題とする。
- ②【理解の確認】 …個人で付箋に書いた質問を、班に配布したワークシートで分類していく。分類の仕方について最初に例示することを通して、理解状況をモニターする。「横軸が『知識-考え』，縦軸が『一般的-個人的』になっている相関図を使って分類し、前時に考えた質問がどの領域に当てはまるか、それぞれの領域の価値について分類した生徒の相関図をモデルとし、黒板で価値について言葉で示していく。事前に考えた質問がどこに分類されるのかが理解できないことは十分に考えられる。かかわり合いを通して、不十分の理解を表出させ、修正を図りたい。
- ③【理解深化】 …分類した質問からよりよい質問作りにつなげるために、「ほかの班の相関図を参考にしながら、自分たちの質問を分析しよう」という理解深化課題に取り組みさせる。ほかの班が分類したのから質問作りのヒントを得て、自分たちの班の質問を再考していく。その際に、どのような意図があつて質問を追加・修正したかをおさえさせ、互いの意図を聞く中でそれぞれの領域の価値についても考えを深めさせる。
- ④【自己評価活動】 …質問を再考した上での振り返りを行わせる。その中で質問作りにはいろいろな視点の必要性や、それぞれの領域の関連性などを記述できるようになってほしい。

## (2) 「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は、次の3点である。

- 1点目は、個人で考えた質問を班で分類する場面。2点目は、班で再考した質問を全体で共有する場面。
- 3点目は、本時の学習を踏まえて気付いた視点や今後の学習で大切にしたいことをシートに記述する場面である。

### 8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の視点・方法	教材・ 教具等
説明する 5分	1. 前時の内容を確認する。 2. 学習課題を把握する。	1. 前時の内容を想起させる。		
	<b>分類した質問を分析し、よりよい質問作りにつなげよう</b>			・けやきノート No.6
理解の確認 7分	3. 前時に個人で書いた質問(付箋)を相関図上で分類する。	3. 同じような内容の付箋を大まかに分類して貼らせる。		・付箋 ・模造紙 ・ペン
理解深化 30分	4. 分類した結果から、それぞれの領域の価値について理解する。 5. ほかの班の分類を参考にし、自分たちの班の質問を作る。 6. 各班で新たに作った質問を発表する。	4. ほかの班の傾向も知り、自分たちに足りない視点に気づく。 5. 各班で付箋に追加(修正)質問を考え、貼らせる。また、領域は異なるがつながる質問や、新たに追加された質問の意図もおさえる。 6. それぞれの領域ごとに発表させ、質問の価値付けをする。	6. 【学習方法(収集分析)】 企業等での体験学習にむけて必要な情報を収集し、その情報を整理・分類・分析している。	・模造紙,  ・付箋
自己評価活動 8分	8. 自己評価する。	8. 本時の振り返りを記入させる。		・けやきノート No.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの質問の偏りや領域の価値がわかり、気付かなかった視点からの質問を考えることができた。</li> <li>・領域は違う質問でも、それをつなげて新しい質問を考えることができた。</li> <li>・ほかの班の質問を参考にして、自分の班の質問作りに生かすことができた。</li> <li>・話し合いで新たに質問を考えることができたが、さらに質問はないかを今後の活動でも考えていきたい。</li> </ul>			
	9. 次時の学習内容を知る。			